



人のとなりには

久保 心優さん (18)

川内北中学校出身で、いき串木野市の神村学園高等部へと進学し、女子駅伝部に3年間在籍した久保心優さん。
今回は、名門神村学園にあって、主将とエースの立場で苦悩しながら、チームをけん引した彼女の思いに寄り添います。

「人のとなりには」とは…
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当ててを目的としています。

新入学児童へ交通安全教材の寄贈

3月11日(金)、公益社団法人鹿児島県トラック協会から交通標識入りの定規約900本が市教育委員会に寄贈されました。この定規は、子どもたちの交通安全への意識を高めることを目的に、交通安全教材として本市の小学校新入学児童へ配布します。



「まちの話題」に投稿ください。

まちの話題は、市民の皆さんからいただいた情報により、身近な話題を掲載しています。皆さんからのたくさんの投稿お待ちしております。

投稿方法

- ①タイトル(11文字程度) ②本文(140文字程度)
 - ③投稿者名 ④連絡先 ⑤写真1枚～3枚
- を添えて、秘書広報課までメールで投稿ください。
メールアドレス/koho@city.satsumasendai.lg.jp

※内容やスペースの都合により掲載できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

高来地区生涯学習展示発表会

3月15日(火)～24日(木)、高来地区コミュニティセンターで、生涯学習展示発表会が開催されました。発表会では、各自主学級や地区住民の皆さんの作品の他、地区内の保育園、小学校の子どもたちの作品なども展示され、日頃の学習の成果が披露された地区の魅力溢れる空間となりました。



【情報提供】高来地区コミュニティ協議会

平佐西小教職員一同が文部科学大臣賞

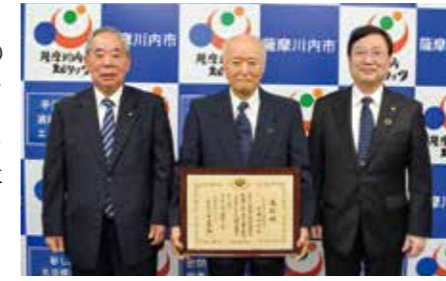
平佐西小学校の教職員一同が、令和3年度「文部科学大臣優秀教職員表彰」の優秀教職員組織として、表彰され、3月18日(金)に、同校で表彰式および受賞報告を行いました。平佐西小学校は、20年以上にわたり、小学校の英語教育に関する研究を継続しており、今回、これまでの研究公開や自主公開を通してその研究成果を県内外に広めてきた功績が評価されたものです。



本市明推協会長が総務大臣表彰

本市の今井浩生(白和町在住)さんが、本市明るい選挙推進協議会(明推協)の会長としての功績により、「第49回衆議院議員総選挙における総務大臣表彰」を受賞されました。

これは、平成21年から会長として、投票率向上を図るため、街頭での啓発活動の実施などに自ら率先して努め、明るい選挙の推進に尽力されていることが評価されたものです。



プロジェクトチーム活動報告書手交式

3月31日(木)、市民の皆さまの意見の広聴や中堅職員などの人材育成・政策形成能力向上を目的に設置された第1期広聴・新ビジョンプロジェクトチームが任期満了を迎え、これまでの活動報告を市長へ手渡しました。この内容は、市ホームページでも公表しており、第3次総合計画の策定に活用します。



高みを目指し神村学園へ
川内北中学校陸上部出身の久保さんは、高校進学で、長距離選手としてのさらなる高みを目指し、県内外から強力な選手が集まる名門校である神村学園の門をたたきました。
「トップレベルの神村学園に進むことはとても不安でしたが、自分に負けたくない、強くなりたいという思いで、決めました」
優勝候補の筆頭と言われたチームで
令和2年、神村学園駅伝部は、都道府県予選で全国大会の歴代最高記録より速いタイムをたたき出し、たちまち優勝候補の筆頭として注目を集めます。その中には、2年生となった彼女の姿もありました。そして、初めて挑んだ全国高校駅伝大会では、2区で出走しますが、11位で受け取ったたすきを12位と順位を落としてしまいます。結果、チームとしては、その後の周りの追い上げもあり、準優勝に輝きますが、個人として責任を感じた彼女の目からは、涙が止まりませんでした。

雪辱に燃えた最後の年
3年生となった久保さんは、神村学園駅伝部で主将となり、同時に、全国高校駅伝が行われる舞台、都大路のただ一人の経験者としてチームのエースへと成長していました。
「日本一のチームにしたいという思いを強く持ち、まず自分が行かせるようにしました」
しかし、そんな気持ちとはうらはらに調子が上がらない日々が続く、そのストイック過ぎるほどの性格と相まって時には体調を崩してしまうことさえありました。
そうして迎えた最後の高校駅伝では、各校のエースが顔をそろえる1区で出走した彼女でしたが、まさかの区間17位という結果に。
3位入賞となった神村学園駅伝部の主将として、涙をこらえ毅然とした態度でインタビューに答えるも、みんなの期待に応えられなかったという思いで自分を責めると、インタビュー終了後には、人知れず一人で泣き続けました。
でも私たちは知っています。主将でエースという重責と、いや応なしに寄せられる大きな期待の中で苦悩を抱えながら、この時のために必死で努力してきた彼女と3位入賞の神村学園駅伝部の主将として、チームをここまで立派にけん引してきた功績を。



故郷と母への思い
高校を卒業した久保さんは、スポーツ選手を多く擁する株式会社デンソーの実業団へと進みました。デンソーに決めたのは、本市で度々合宿を行っていることから、本市に何かしらの形で恩返しできればという思いと母が一人待つ本市に帰って来られるという理由からでした。
「これから先も競技を続け、実業団という新しい世界で戦っていきます。応援してください。皆さんに、常に感謝の気持ちを忘れず、笑顔と元気を届けられるように世界で戦える力を付けたいと思っています。そして、母は、どんな時も誰よりも一番に心から寄り添ってくれて、さまざま面で支えてくれてます。自分の好きな『走る事』をさせてくれて、応援してくれて感謝しています。これからもっと強くなるように頑張ります」
その名前のおりに心優しく、故郷と母親を思いながら、前を向く彼女の目には、もう涙は見えません。